

活用方針・導入/活用までのステップ



VLP取組概要

適

■ VLP活用のねらい

- (1) 学校、適応指導教室、フリースクール等への参加が断続的になっている児童・生徒に対して、仮想空間を活用した居場所と学習の機会を確保する。
- (2) VLP上での学習支援をととして、自律した学習者を育成し生涯にわたって学ぼうとする力を高め、不登校児童・生徒の社会的自立に生かす。

■ 対象生徒・児童

- ◇不登校が長期化している児童・生徒で、サポートルーム、適応指導教室、フリースクール等に通うことができない児童・生徒
- ◇不登校が長期化している児童・生徒でサポートルーム、適応指導教室、フリースクール等のいずれかに通うことはできているが、学校とのつながりを増やしたい児童・生徒

■ 運営時間

◇月曜日から金曜日の午前9時から午後5時

■ 活用方法

- (1) 学級担任や、支援員とのコミュニケーション
- (2) VLP内に作成した府中市に関する学習コンテンツの学習
- (3) 教科書に対応した自学自習用Web教材である「デキタス」やプログラミング教材の「みんなでプログラミング」を使用して学習



VLPの導入/活用までのステップ

1 令和6年5月

- ・校長会で、11月からの
全校実施をアナウンス

2 令和6年7月～9月

- ・モデル校2校による、
先行実施

3 令和6年10月

- ・募集開始
- ・教員向けVLP体験会開催

4 令和6年11月

- ・全校実施

5 令和6年11月～令和7年3月

- ・検証改善期間

※学校だけでなく、SSWの支援方法の一つに位置付ける。

市役所関係各課と
協働しながら、VLP内の
環境の整備

- ◆府中市美術館
- ◆府中市観光協会
- ◆府中市立中央図書館

等

活動・取組み内容

活動・取組み内容

【導入前】

- ◆ 市としてのコンセプト「空間内に留まらず、府中のことを知り、一歩でも、外に出て関わりをもつ」ことを大切にし、環境を整えた。
- ◆ VLP内のコンテンツをどのようにするかを検討した。
- ◆ 本事業の運用にあたっての、人的ネットワークをどのようにつくっていくのかを検討した。

【導入初期】

- ◆ 入室する児童・生徒が限定的であった。
- ◆ 児童・生徒が入室した際、どのような活動を行っているのかをチャット履歴等を分析しながら、運用方法を検討した。
- ◆ 児童・生徒のニーズが、空間内での支援員、学級担任等とのチャットによるコミュニケーションであることが分かった。

【運用期】

- ◆ 令和7年度を見据え、事務局と支援員とが積極的なコミュニケーションを取っていく必要があると感じた。
- ◆ SSWの支援方法の手段の一つとしてVLPを活用した。
- ◆ 教員向けに、府中市独自で説明動画を作成した。



1 府中電子図書館の導入



2 教員向け説明動画作成



3 SSWの支援方法として活用

成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

< 成果 >

- ◆VLP内での会話が児童・生徒のコミュニケーションの場として効果的だった。
- ◆自分のペースで入室・退室することができるため、児童・生徒にとっては無理のない範囲で参加することにつながった。

< 好影響 >

- ◆継続的にVLP内で関わりをもったことで、外で会う約束をし、実際に、学校の校門の前で会うことができた。
- ◆VLP内での児童・生徒の様子を担任等が知ることで、新たな児童・生徒の一面を発見するきっかけになった。

利用者の声



児童・生徒

- ・イラストを描けるスペースがあってよかったです。【小学校6年生】
- ・支援員さんがチャットで話しかけてくれてよかったです。【中学校1年生】
- ・自分の居場所みたいなことができました。【中学校3年生】
- ・途中で画面が固まってしまって、困りました。【中学校1年生】



教職員や保護者等

- ・利用児童については、これまで来校して人とかかわることができていなかったが、VLPを利用することで、外部の人とかかわることができたので有効であった。【教員】
- ・自分のペースで参加できるのでとてもありがたいです。顔を出したり、音声で会話できたり、選べるのもよいと思います。【保護者】

次年度以降の方針

- 【方針1】 令和7年度は5月より全校実施する。
- 【方針2】 定期的に、支援員と事務局の懇談会をVLP内で行い、情報の共有を図る。
- 【方針3】 教員向けのVLP研修会を実施する。
- 【方針4】 動画、画像を活用しながら、バーチャルとリアルを行き来できるコンテンツを開発し、VLP内から一歩踏み出せる環境をつくる。